



かわにし 70 年

なつかしの写真展

ー川西市制 70 周年プロジェクトー

川西市は 2024 年に市制 70 年を迎えます。

川西市が市民にとって「大切なまち」であり続けることを目的とし、100 周年のミライを見据え「笑顔つづくミライへ。」をテーマに様々な事業を実施します。「なつかしの写真展」では、市制 70 周年を記念して川西の過去を振り返る写真展を年間通して市内の様々な場所で開催します。当時の人々の暮らしや街の様子などの貴重な歴史・文化を記録し、未来に向けて後世に伝えます。

ー市制施行ー

川西市は昭和 29 年（1954）8 月 1 日に川西町・多田村・東谷村の 1 町 2 村の合併により市制施行
市制施行当時の人口は 33,741 人、世帯数は 7,490 世帯であった。

ー川西市の変遷ー

川西市は市制施行当時、人口規模では県内で最も小さい市であった。

昭和 20 年代の川西市の人口は、旧川西町約 25,000 人に対し、旧多田村が約 4,600 人、旧東谷村が約 3,800 人（昭和 25 年国勢調査）と、住民の多くが南部地域に集中していた。

明治 41 年（1908）能勢電気軌道（現能勢電鉄）が創立し「能勢口駅（現川西能勢口駅）」が誕生する。これに伴い、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が宝塚線に「能勢口駅」を開業。大阪の市街地と結ばれたことにより、それまで田畑と僅かな集落しかなかった川西町が郊外住宅地として開かれ、また官営鉄道（現 JR 福知山線）の池田駅（現川西池田駅）とも隣接している駅周辺は、住宅や店舗が次々と建てられ市街地が形成された。これにより川西町の人口も増加する。

その後、宅地開発が川西町から徐々に北上し、昭和 40 年代には旧多田村や旧東谷村の農地や丘陵地の宅地化が進み、大規模な住宅団地に学校や公共施設、商業施設が次々と誕生し人口は約 87,000 人まで急増、昭和 47 年（1972）12 月には 10 万人を突破した。

人口の急増に伴い交通機関も発達する。市を縦断するように走る「能勢電鉄」は今や川西市民の生活に欠かすことはできないが、開業当時は能勢妙見山の参拝客の輸送と、酒や米などの産物輸送が主な目的であった。当初は能勢口駅から一の鳥居駅間を往復するのみであったが、昭和 40 年代の人口急増にあわせて路線改良を行い、木造の小型車両から鋼製の大型車両に入れ替え、昭和 53 年（1978）には山下駅から日生中央駅に至る「日生線」を開業した。

昭和 40 年代後半からは都市部の再開発が行われ都市整備が進み始める。昭和 61 年（1986）には川西能勢口駅付近の連続立体交差事業工事が着工され、平成 4 年（1992）に阪急電鉄宝塚線、平成 8 年（1996）には能勢電鉄の高架化が完了、翌年平成 9 年（1997）には、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅共用ホームが完成し、全ての連続立体交差事業が完了した。あわせて、昭和 60 年（1985）に駅前再開発ビル「パルティ川西」が、平成元年（1989）には「アステ川西」がオープンするなど、現在の「川西の玄関口」へと変貌を遂げた。

ー市民公募 写真提供者様ー

荒井 吉太郎 様
江畑 卓哉 様
小野 百合美 様
増井 善五郎 様
三原 茂樹 様
渡邊 恵子 様
能勢電鉄株式会社
(順不同)

開催場所・期間（予定）：

①川西市役所（屋内）	1 月 15 日～12 月 27 日
②多田神社（屋外）	3 月 4 日～4 月 14 日
③キセラ川西プラザ（屋外）	4 月 2 日～12 月 27 日
④川西市立ギャラリーかわにし（屋内）	7 月 31 日～8 月 12 日
⑤けやき坂中央公園（屋外）	9 月初旬～10 月中旬
⑥川西市郷土館（屋外）	10 月中旬～11 月下旬



なつかしの写真展 市 HP

川西市 70 周年事業 特設 HP



■いずれも鑑賞無料になります。 ■開催場所や期間は現状の予定となりますので、変更する可能性があります。
■詳しい開催場所や期間・時間等については、市 HP（右記の二次元コード）から発信しますので、ご確認ください。
主催：川西市 問い合わせ先：川西市市長公室 市制 70 周年記念事業事務局 072-740-2034（直通）